

お気軽にお電話下さい!

1月開講 受講生募集!

見学・体験
無料

RKKカルチャーセンター
熊本市長嶺南3-9-1

RKK学苑
熊本市山崎町30 RKK西館

ゴルフ講座

基本から実践まで楽しく学べます。

期 間: 1月~3月(3ヵ月/10回)

場 所: RKKカルチャーセンター
受講料: ¥24,000 定 員: 6名

場 所: 広畑ゴルフ倶楽部
(熊本市長嶺南1丁目4-70)
受講料: ¥29,000 定 員: 10名



テニス講座

ラケットのにぎり方からゲームの勝利の方程式まで楽しくレッスンします。

期 間: 1月~3月(3ヵ月/8回)

場 所: エミナス
(上益城郡益城町田原2071-1)
受講料: ¥11,600 定 員: 20名

曜日・時間: 日曜日 10:00~12:00
日曜日 14:00~16:00(中級)



パソコン講座

基礎からエクセル・ワードのスキルアップ、また、オリジナル写真集フォトブックの作成を学びたい方へおすすすめ!

場 所: マリオネット(熊本市神水2丁目2-10)

期 間: 1月~(全5回) 受講料: ¥9,000(別途教材費800円) 定 員: 20名

期 間: 1月~(全8回) 受講料: ¥14,400(別途教材費1,050円) 定 員: 20名

場 所: RKKカルチャーセンター

期 間: 1月~(全5回)
受講料: ¥9,000(別途教材費1,000円)
定 員: 20名



冬休み 短期集中! アナウンサー受験アドバイス講座

アナウンサーを目指すあなたへ! 元RKKアナウンサーの清原春一が指導的、的確な受験アドバイスです。

日 程: 2012年1月5日(木)、6日(金)
7日(土)、10日(火)、11日(水)
全5回

場 所: RKK学苑
受講料: ¥36,750(5回分一括・税込み)

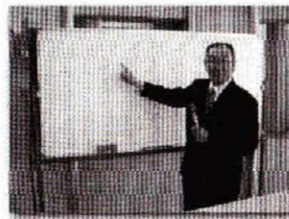


アナウンス講座

基礎となる発声・発音や言葉の使い方などアナウンスに関するプロが徹底指導します。

日 程: 火曜・木曜
(3ヵ月・全20回)

受講料: ¥53,550
(20回分一括・税込み)



かづきれいこメイク講座

個性や顔立ちにあったメイクを学んで、若々しく生き生きとした顔に!
(かづきれいこ監修)

日 程: 2012年1月18日(水)、
2月1日(水)、15日(水)、29日(水)
3月7日(水) 全5回

受講料: ¥15,750
(5回分一括・税込み)



講座についての詳しいお問い合わせ、お申込は

RKKカルチャーセンター 熊本市長嶺南
電話 096-383-3900
メール info@rkk-cc.jp

RKK学苑 熊本市山崎町
電話 096-212-0600
メール gakuen@rkk-cc.jp

RKK
熊本放送
URL: rkk.jp
※made:Yahoo!ケータイ・EZwebからも可

第53回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第29回

平成23年12月25日(日)午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール

主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会
共催/財熊本県立劇場

後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM791



熊本県知事
蒲島郁夫

第29回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

この演奏会は、昭和57年の熊本県立劇場の落成記念に演奏されて以来、クリスマスシーズンを飾る県民参加の音楽会として広く親しまれています。これも「熊本県民第九の会」の皆様の長年のご努力のたまものと、深く敬意を表します。

ベートーヴェンは、この「第九交響曲」の終楽章に、4人の独唱と混声合唱を取り入れ、人間の尊厳と人類愛を世界に向けて呼びかけたと言われており、世界中で広く愛され演奏されてきました。

今回の演奏会でも、公募により選ばれ、新田ユリさんのもとに厳しい練習を積み重ねてこられた合唱団員300名の皆さんと、第一線で活躍中の4人のソリストの方々や熊本交響楽団の迫力ある歌声とオーケストラが融合し、会場とステージが一体となって、感動を共有できる「第九」の演奏を楽しみにしています。

県では先人から伝えられた貴重な歴史と文化を保存・継承し、ふるさとの心を大切に伝え、誇りに満ちた魅力あふれる「品格あるくまもと」づくりに向けて、人材の育成や文化の継承に取り組んでいます。

「熊本県民第九の会」の皆様におかれましては、今後とも、県民一体となって創り上げてこられた「第九」演奏会を通して、引き続き本県の文化の発展と元気づくりにお力添えくださるよう、お願い申し上げます。

最後に、本日の演奏会のご盛会と、本日で参集の皆様のご活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。



熊本県立劇場館長
葉山完治

今年のベートーヴェン「第九」は、クリスマスの演奏会となりました。

皆様も、ことし一年の幸せを抱きながらこの夜を迎えられたことと思います。

しかし、2011年を振り返りますと、国内では東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、海外では中東諸国の民主化の動き、ギリシャに端を発した「ユーロ問題」、タイの洪水被害等々、「想定外」という言葉が流行語になる程の多端な一年でした。

「たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！」の歌詞のように、人々の絆や連帯を思い起こす「歓喜の歌」が、これ程ふさわしい年はありません。

それぞれの思いがこめられた300人余の歌声が、熊本交響楽団の演奏とあい和して、コンサートホールに響きわたり希望へと繋がるものと思います。

今年は、指揮者に東京都交響楽団など国内の数多くの交響楽団を指揮し、フィンランドなど海外でも活躍した新田ユリさんを迎えます。女性の指揮による「第九」は、第20回の松尾葉子さん以来二人目です。

ソリストには、本松三和さんを初めて迎えます。また、アルトの山下牧子さん、テノールの米澤傑さん、バリトンの松岡聡さんは一昨年も共演しています。今回も、息のあった演奏が期待されます。

熊本の師走を彩る、この演奏会は今年で29回を数えます。

今宵クリスマスに鳴り響く歌声と演奏は、必ずや新たな伝統を切り開くことでしょう。皆様とともに楽しみあいしたいと思います。



熊本県文化協会会長
小堀富夫

第29回の「熊本県民第九の会」の演奏会が今年も盛大に開かれますことに心よりお慶び申し上げます。

熊本の年末行事としてすっかり定着したこの演奏会はもともと熊本県立劇場の落成を記念して始まりました。

この演奏会に出演する合唱団の皆さんは一般から公募されていますが、今年もおよそ300名が参加されています。今回が初めてという方、そして最初から参加されている方々など、今までに8000人の人が年末の熊本県立劇場で声高らかに「歓喜の歌」を力強く歌ってこられました。

演奏は最初から熊本交響楽団ですが、こちらにも最初から参加されている方もあり、合唱団・演奏とも親子二代にわたって参加されている方も多く見られます。

今年の演奏会の指揮は新田ユリさん、そしてソリストには本松三和（ソプラノ）・山下牧子（アルト）・米澤傑（テノール）・松岡聡（バリトン）の皆さんに出演して頂いています。

この方々を迎え、合唱団300名熊本交響楽団100名の舞台はすばらしい演奏会になるだろうと期待しています。

来年は30回を迎えるこの第九演奏会は出演者の皆さんは勿論ですが、特に実行委員会の方々の献身的な努力に支えられており、ここに改めて敬意を表します。

さらに応援をして頂く皆さま方のお陰であり、今後のご支援・ご協力を心よりお願いいたします。そして演奏会が盛大に終わりますよう祈念申し上げます。お祝いのご挨拶といたします。



熊本県民第九の会実行委員長
神田一伸

本日は熊本県民第九の会の演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。

ご承知のように3月11日に東日本大震災が発生し、大勢の方が地震と未曾有の大津波により被災され、二次的な災害として福島原発の原子炉が危機的な状況のまま地域の方々の避難が継続しています。九州に住む我々も何か復興に力を注ぐことはできないかと思う次第です。県民第九の会としましては、ベートーヴェンが心血を注ぎ、世界のあらゆる人たちが同胞とならんことを願い、思いを込めて作曲した「第九交響曲」を被災された方々へその歌声を届けることが精一杯のエールだと思っています。さて、今回の指揮者は現在北欧で活躍中の新田ユリ先生です。特にフィンランドの作曲家の演奏には定評があります。今年の第九演奏会では先生のご提案でシベリウスの「フィンランディア」を合唱付き（フィンランド語）で演奏いたします。ソリストにはソプラノに熊本出身の本松三和先生を初めてお迎えしました。アルトは山下牧子先生、テノールは米澤傑先生です。バリトンは合唱のご指導をいただいている松岡聡先生が2度目のステージとなります。今年で29回目の県民第九の演奏会です。幸いにも多くの方々に助けをいただき、毎回立派な第九が演奏できました。これも一重に演奏会を楽しみにされている熊本県民のご支援、関係各位のご理解があったことと感謝しています。今年もこれまでに勝るとも劣らない素晴らしい演奏を県立劇場に響かせようと8月より練習を重ねてきました。これまで共に歌ってきた方たちのことを思い浮かべながら、そして明るい未来を信じて素晴らしい演奏が一人でも多くのお客様の心に残るよう演奏したいと思います。県民の第九の会です。今後ともどうか宜しくご支援のほどお願い申し上げます。

指 揮 新 田 ユ リ
独 唱 ソプラノ 本 松 三 和
 ア ル ト 山 下 牧 子
 テ ノ ー ル 米 澤 傑
 バ リ ト ン 松 岡 聡
合 唱 熊 本 県 民 第 九 の 会 合 唱 団

合唱指揮 平 和 孝 嗣
 工 藤 勇 壹
 松 岡 聡 利
 中 島 章 利
ピアノ 古 閑 恵 美
 星 子 眞 澄
 林 原 ゆ り
 川 辺 里 美
 隈 部 文

管 弦 楽 熊 本 交 響 楽 団



指 揮 新 田 ユ リ

(に っ た ゆ り ・ Yuri Nitta)

国立音楽大学卒業。桐朋学園大学ディプロマコース指揮科入学。指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、小松一彦各氏に師事。'90年第40回ブザンソン国際青年指揮者コンクールファイナリスト。'91年東京国際音楽コンクール指揮部門第2位。'91年に東京交響楽団を指揮してデビュー。その後も東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、仙台フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪センチュリー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団などを指揮。また東京佼成ウインドオーケストラ、大阪市音楽団、東京吹奏楽団など吹奏楽での活動も行っており、'94年にキングレコードより東京佼成ウインドオーケストラを指揮して6枚リリース。'09年10月には東京佼成ウインドオーケストラ、大阪市音楽団を指揮したCDが3枚ポニーキャニオンよりリリースされた。オペラでは、横浜シティオペラ、大田区民オペラ協議会で モーツァルトの5大オペラ、「夕鶴」などを指揮。'00年10月～ '01年10月、文化庁芸術家在外研修員としてフィンランドに派遣され、音楽監督オスモ・ヴァンスカ氏のもとラハティ交響楽団で研修。フィンランド国立歌劇場とサヴォンリンナ音楽祭においても、オスモ・ヴァンスカ氏のアシスタントを務める。これまでにクオピオ交響楽団、ミッケリ市管弦楽団、フィンランド海軍吹奏楽団、フィンランド国防軍吹奏楽団、ラ・テンベスタ、クリスチャンサン交響楽団などフィンランドはじめ北欧諸国へ客演を続けている。2005年～2007年オウルンサロ音楽祭へ招聘、2006年リエクサ・プラスウィーク客演。2005年9月にフィンランド日本友好協会よりラムステッド基金奨学金を授与される。また2006年4月にはオクタヴィア・クリストンよりヨウコ・ハルヤンネ氏（フィンランド放送交響楽団ソロ首席トランペット奏者）との共演CD<Symbiosis>がリリースされた。2006年、2007年には東京新聞フォーラム「指揮者がみたフィンランド」にて講演と演奏のプロデュース・指揮を務めた。2007年4月より2009年3月まで中日新聞「エンタ目」に月1度コラムを執筆。プログラムノートの執筆も多く自分の公演のほか、北欧音楽を取り上げた2007年5月紀尾井シンフォニエッタ東京、2008年1月NHK交響楽団の定期演奏会を担当。2008年6月、2010年7月にNHK「名曲探偵アマデウス」に出演。シベリウスの「フィンランディア」「交響曲第2番」を特集した番組の解説を務める。日本シベリウス協会事務局長・理事。国立音楽大学非常勤講師、同志社女子大学音楽科嘱託講師、アイノラ交響楽団正指揮者「森と湖の詩サロンコンサート」主宰。



平成22年12月26日(日)《第28回熊本県民第九の会演奏会(指揮=角田鋼亮)》

本松 三和 (もとまつ みわ)

ソプラノ



東京芸術大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。第22回飯塚新人音楽コンクール第2位、第2回東京音楽コンクール第2位、第46回日伊声楽コンクール入選。2005年に庭園美術館にてソロコンサートを行う。また、これまでに山形交響楽団・日本フィルハーモニー交響楽団・東京都交響楽団等、多くの交響楽団と共演。第九・モテット・バッハカンタータ・メサイア等でソリストを務める。オペラにおいては、「魔笛」の夜の女王、『コジ・ファン・トゥッテ』のデスピーナ、『ボエーム』のムゼッタ役等で好評を得ている。「スカラ座の名歌手に学ぶ〜マルゲリータ・グリエルミベルカントレッシン《基礎練習編(初心者からプロまで歌を愛するすべての人へ)》DVD」に出演。現在は後進の指導を行うと共に、オペラ出演・コンサート等、精力的に活動中。これまでに、菊池初美、菊池英美、E・オブラスツォワ、V・テラノーヴァ、M・グリエルミ、松本美和子の各氏に師事。平成24年武蔵野音楽大学オペラ公演「魔笛」に夜の女王役で出演予定。

山下 牧子 (やました まきこ)

アルト



広島大学を卒業後、東京芸術大学大学院に学ぶ。二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第10回奏楽堂日本歌曲コンクール入選。第1回東京音楽コンクール声楽部門1位。第72・73回日本音楽コンクール共に3位入賞。2002年には日生劇場オペラ教室「カルメン」タイトルロール、2004年から、新国立劇場にて、マスカーニ「友人フリッツ」、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」、ベルク「ルル」、プッチーニ「蝶々夫人」、ビゼー「カルメン」、シュトラウス「サロメ」、ツィンマーマン「軍人たち」などに出演。2005年には二期会の公演にも活躍の場を広げ、ヴェルディ「椿姫」フローラ、ヘンデル「ジュリアス・シーザー」タイトルロール、モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」(文化庁芸術祭大賞受賞)ドラベッラ、シュトラウス「サロメ」ヘロディアスを務める。国内主要オーケストラとも多数共演し、ベートヴェン「第九」、バッハ「短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、デュルフレ、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー「復活」等のソリストとして活躍。スケールの大きさを感じさせる歌唱力と華のある音楽性を兼ね備えた逸材。二期会会員。

米澤 傑 (よねざわ すぐる)

テノール



鹿児島大学医学部卒業、同学部教授。松本美和子氏他に師事。日伊コンクール入選、太陽コンクール・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、日本クラシック音楽コンクール第1位グランプリ。蝶々夫人やカルメンの主演、第九、メサイア、ヴェルディ「レクイエム」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」、NHKテレビ「第九をうたおう」(井上道義指揮)等のソリスト。イタリア・米国をはじめ国内外の各地で歌い、02年ルーマニアで「最高のテノール」、04年東京紀尾井ホールで「マリオ・デル・モナコの声を持つ医学部教授」と話題になる。04年と05年東京芸術劇場でのイタリアの世界的テノールとの共演、05年イタリア(G.プロイエッティ指揮)と日本(若杉弘指揮、ベリオ版日本初演)での「トゥーランドット」のカラフ王子で大絶賛を博す。06年NHK芸術劇場「二つの顔を持つ音楽家」、07年国民文化祭「第九」、メンデルスゾーン「最初のワルブルギスの夜」(オーチャードホール)、10年京都会館開館50周年記念「第九」ソリスト等。09年と11年のNHK「ラジオ深夜便」に出演。11年大阪「中之島国際音楽祭 2011」の「3大テノール」で絶賛される。2010年、病理学会で最も名誉ある「日本病理学賞」を受賞。医学博士。CD「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペラアリア集 (G. ステファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団)」は、タワーレコード J-CLASSICAL ウィークリーチャートで計4回第1位、09年7月には話題のピアニスト・辻井伸行氏のCDを抜いて第1位を獲得。

松岡 聡 (まつおか さとし)

バリトン



宮崎大学教育学部特設音楽科声楽専攻卒業。新圭子、ジェラルド・スゼー、松本美和子、堀内康雄諸氏に師事。1988年、1989年夏にザルツブルク・モーツァルトウム音楽院にてジェラルド・スゼー氏のマスタークラスを受講、フランス歌曲を中心に研鑽を積み、1988年初めてのリサイタルを開いた。教職に就きながら「歌うこと」の夢を追い続け、不定期ではあるが現在もリサイタルを開いている。また、歌劇の経験として、ヘンゼルとグレーテルの父親ペーター役や細川ガラシャの巡礼の父役などがある。平成8年から熊本県民第九の会の合唱指揮を務める傍ら、第九の会実行委員会委員として会の運営にも携わる。ここでは指揮者やソリスト、そして何より合唱団の皆様との多くの出会いがあり、かけがえのない勉強の機会となっている。平成20年夏に武蔵野音楽大学インターナショナルサマースクールにて堀内康雄氏のマスタークラスを受講。10月に2回のリサイタルを経て、その年の第九演奏会ではバリトン独唱の大役を務めさせていただき好評を得た。その後、2009年3月に赤十字チャリティコンサートや、同年6月熊本フィルハーモニアシンガーズ演奏会にて、フォーレのレクイエムのソリストなど演奏の機会を広げることができた。今年9月にNHK美術館コンサートに出演し、おしゃべりと歌で楽しい演奏会となった。12月17日には東日本大震災支援チャリティコンサートを泗水中学校生徒の合唱と第九の会実行委員事務局長の坂口幸男氏(テノール)の協力を得て熊本白川教会にて実施した。現在菊池市立泗水中学校教諭、熊本県民第九の会実行委員会委員及び合唱指揮者、熊本県文化懇話会会員。



平和 孝嗣

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所(第一期生)。ウィーン国立音楽大学卒業(オーストリア政府給費留学)。1978年シュールト・ヴォルフ国際音楽コンクールでディプロム獲得。これまで熊本や東京、ドイツ、ウィーン等で「詩人の恋」「冬の旅」「さすらう若人の歌」などドイツリートを中心として21回のソロ・リサイタルを開催。また、「メサイア」「第九」「レクイエム」他、宗教曲や、オペラ「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「カルメン」「こうもり」等々、多くのオペラやコンサートに出演。また、九州でのいろいろな音楽コンクールの審査員も務めている。現在、熊本大学教育学部教授。



工藤 勇壹

国立音楽大学声楽科卒業。7年間、二期会合唱団に所属し数多くのラジオ、テレビ、オペラなどに出演。昭和49年より九州女学院高等学校に勤務し、九州女学院合唱団の指揮者として熊本県代表、九州代表へと導いた。現在、碩台公民館合唱サークル、ルーテルマミーコール、フリーデ・コール、デメテル男性合唱団指揮者、熊日学生音楽コンクール審査員、NHK全国学校音楽コンクール審査員、高文連音楽コンクールの審査員などを務める。



中島 章利

北海道大学卒業。中学校、高校時代を熊本で過ごしサッカー部に所属していた。大学入学と同時に女子学生の甘い勧誘によって合唱に引きずりこまれ現在に至る。合唱指揮を木内宏治氏(前北海道合唱団指揮者)、管弦楽指揮を栗田哲海氏(九州交響楽団他の指揮者)、春日市民交響楽団常任指揮者)に師事。声楽を中尾富子、石田久大、三浦國彦氏の各氏に師事。昭和61年札幌市新人音楽会声楽部門に出演。札幌市で多数の合唱団を指導。帰郷し、現在、ロシア作品を中心に歌う女声合唱団チャイカを主宰。男声合唱団KGC指揮。福岡合唱指揮者協会会員。

1. 交響詩「フィンランディア」 作品26

シベリウス

2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 FINALE

皆さん一緒に第九を歌いましょう

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としての事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約100名からなるオーケストラ、そして約300名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した者しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年6月上旬からはじまり、7月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項(申込書)」は6月上旬から県立劇場・崇城大学市民ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は8月中旬に結団式を行い、9月から12月まで月3回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後合計13~14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会
お問合せ 事務局 096-322-4306

ピアニスト
プロフィール



古閑 恵美

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。数多くの演奏会にソリストとして出演する一方、著名な器楽奏者や声楽家などとピアニストとして共演。合唱ピアニストとしてトップレベルの合唱団から招かれる。九州公私立大学音楽学会会員。



星子 眞澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立ブライナーコンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、3回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師、熊本市立必由館高校芸術コースピアノ講師、熊本文化懇話会会員。



林原 ゆり

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会等に出演。ソロ・デュオコンサート開催。合唱・声楽・器楽等の伴奏ピアニストとして活動している。熊本県立第一高等学校合唱団、コーロソレイユ、コーロフィオーレ伴奏ピアニスト。



川辺 里美

熊本大学教育学部音楽科卒業後、福島大学大学院教育学研究科音楽教育専修修了。Van Vertコンサート、NHK美術館コンサート等に出演。アンサンブルピアノの夕べ、フランス音楽の夕べなどを開催。大阪音楽国際音楽コンクール連弾部門入選。現在、日独協会合唱団「コール・クライゼル」伴奏者。



隈部 文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。現在、平成音楽大学、九州ルーテル学院大学、熊本YMCA学院講師、リトミック研究センター熊本支局指導スタッフ。コール・湖東ピアニスト。また、幼稚園、保育園、高齢者施設でリトミックを行っている。

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

バリトン独唱・合唱

歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

四重唱・合唱

大なる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

テノール独唱・男声合唱

歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

合 唱

たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1. 交響詩「フィンランディア」 作品26

シベリウス

フィンランドは、13世紀頃から19世紀の初頭まで
スウェーデン支配下の大公国であったが、1809年以
降ロシアの支配下とされてからは、フィンランドの自
由が次々と奪われ、ロシアの属領化策が強引に推進さ
れていった。そのためフィンランドでは愛国独立運動
が激しく起こり、文化的な行事も国民の愛国心の高揚
に大きな効果をあげた。その一つとして民族的歴史劇
「いにしえからの情景」が上演されることになり、シ
ベリウスも音楽家としてこの劇のために作曲してその
上演に携わった。

この劇は、フィンランドの民族的叙事詩である「カ
レワラ」のワイナモイネンの時代から、19世紀までの
フィンランドの歴史を六つの場面にしたものである。こ
の劇音楽の中から後に交響詩「フィンランディア」と
して改訂の手が加えられた。なお、「フィンランディア
」というタイトルは外国語式に記したもので、フィン
ランド国内では、「スオミ」と呼ばれている。
フィンランドの聴衆は、この作品のなかに込められた
並々ならぬ熱い愛国の心を聴きとった。そこでロシア
官憲は、この「スオミ」と題されるこの作品の国内で
の演奏を不穏当として、禁止してしまった。

なお、その後この交響詩の中間部の旋律にV.コスケ
ンニエミのよって詩がつけられ、「フィンランディア
賛歌」と呼ばれる合唱曲が作られた。この曲は今日で
はフィンランドの準国歌として愛唱されている。

曲は、アンダンテ・ソステヌートで金管楽器によっ
て「苦渋のモチーフ」が重々しく奏され序奏によっ
て開始される。この悲劇的なモチーフを受けて、民
衆の悲嘆を象徴するような旋律が木管と弦にあらわれ
る。やがて曲はアレグロ・モデラートになり、「闘争
への呼びかけのモチーフ」が激しく打ち鳴らされ、
冒頭の「苦渋のモチーフ」がつづく。

中間部では、木管と弦、それに今回は合唱も加わっ
て賛歌風の美しい旋律が奏される。これが第二の国歌
と言われる「フィンランディア賛歌」である。やがて
前出のモチーフが現われて曲は一気に高められ、全
員の合奏によって力強い終止へと導かれる。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする
八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目
の交響曲に書手した。

1793年、ポンのフィツツェニヒは、シラー夫人の手紙
で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう
…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボン
にいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作
曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベ
ートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。この
ことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、
消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよ
に実現することになった。そして1823年から24年にか
けて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に
寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じ
つに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神
の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な
精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもの
で、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は
当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や
大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の
三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナートア
劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、こ
の曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。
ベートーヴェンは正指揮者のウラウフの隣りにあって、
実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間
に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉
大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が
起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となつた。
満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。し
かし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にして
ボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーが
かれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初め
てこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたと
いう。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍
手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出
させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、
警官があわてて聴衆を制したという。

楽 曲 解 説

TUNE ; EXPLANATION

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持ちもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

おおよそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、おおよそ考える限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような

明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく自由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター 松岡 聡・神田一伸 CHORUS

Soprano (ソプラノ)		Alto (アルト)		Tenshi	
相川 久仁子	津留 恭子	愛甲 訓子	坂口 一子	平野 玲子	野邦子
阿部 奈津子	澤屋 美和子	青野 タツ子	坂本 美和子	廣田 邦子	福美子
池上 聡子	尾田 桂子	明石 瑠璃子	佐藤 加代子	藤川 美幸子	藤川 美代子
池田 三千代	中村 久代	阿南 治代子	重村 節子	藤田 美恵子	藤田 本恵子
井芹 順子	中山 友美子	安部 桂子	品川 あかつき	藤山 朋子	藤山 美智子
稲岡 福子	中橋 口博子	荒木 雅子	柴田 道子	藤原 美智子	藤原 美智子
入部 一代子	橋本 淳子	荒木 弥生	芝原 登美子	藤越 絹代子	藤越 絹代子
岩木 恵子	橋本 敬子	伊佐 真理子	島田 眞由美	古谷 道子	古谷 道子
上村 貴世	服部 晶子	石原 昌子	杉本 弘子	星崎 文代子	星崎 文代子
上村 治美	濱田 洋子	伊藤 律子	高木 裕子	正木 恒子	正木 恒子
内田 和代	濱田 一子	井野 亮子	高濱 左衛子	益田 裕子	益田 裕子
大溝 逸子	早田 章子	今井 亮子	高比良 榮子	益田 嘉子	益田 嘉子
大村 由美子	東 恵子	今村 かをる	田川 珠恵子	益田 留美子	益田 留美子
岡沢 康子	平尾 祥子	岩坂 美紀子	田北 真理子	松尾 留美子	松尾 留美子
岡田 美花子	福田 睦子	牛島 絹子	竹下 敬子	松永 ぎん子	松永 ぎん子
緒方 和子	福藤 悦子	内田 禮子	田島 幾子	松本 美知代	松本 美知代
小川 美智子	古木 英恵子	江崎 恭子	立山 加奈子	水野 和子	水野 和子
小倉 真里子	前田 弥生	江津 加良子	田中 千勇子	三宅 恵美子	三宅 恵美子
小迫 奈緒	増松 川千晶	大久保 庸子	田中 洋子	宮原 徳子	宮原 徳子
梶原 紀久子	松村 紀子	大塚 喜久子	田上 冷子	宮本 裕子	宮本 裕子
春田 香子	松門寺 阿古	大塚 幸子	玉井 了子	村上 早智子	村上 早智子
川田 幸子	松本 晴美	大塚 満喜子	辻 幸子	村 上博子	村 上博子
河原 恵理子	松山 テル子	織方 由美子	池田 千佳子	村上 敬子	村上 敬子
川部 恵子	丸山 敬子	沖米 田恵子	内藤 邦子	森 幸子	森 幸子
吉良 久子	三島 多恵子	小澤 弘子	中川 さよ子	森 幸子	森 幸子
栗崎 博子	光延 美知恵	小山 子工	中島 マサ子	安田 美喜子	安田 美喜子
工藤 たみ子	宮石 本奈都美	小山 千枝子	中野 俊子	柳田 恵子	柳田 恵子
久保田 雅子	宮本 はつみ	川上 喜久子	中野 智子	柳田 美紀	柳田 美紀
隈部 文	村上 ひとみ	川崎 節子	中山 弘子	山下 富江	山下 富江
藏元 由美子	村上 実枝子	川野 田津子	名島 和美子	山下 久恵子	山下 久恵子
黒木 紀子	安田 志津子	菊池 吟子	西戸 美奈子	山田 真禮	山田 真禮
黒瀬 美由紀	住 八ツノ	北野 美栄子	西野 尚子	吉田 真敬子	吉田 真敬子
小島 淑子	隈崎 由紀	北原 雅子	野田 信子	米村 光	米村 光
古城 久美子	隈崎 恵子	北村 秋代	野田 矩	米村 光	米村 光
藤田 和代	隈崎 はるみ	北木 下原	野村 ちひろ	米村 光	米村 光
佐藤 賀	隈崎 美穂子	木原 美智代	野村 口泰子	米村 光	米村 光
志賀 輝子	隈崎 味詠子	清川 光乃	橋口 弓子	米村 光	米村 光
杉本 由美子	山崎 本田	清原 真理子	馬場 美也子	米村 光	米村 光
杉園 扶美	山崎 武富	吉原 圭子	濱田 敏子	米村 光	米村 光
高岡 久美子	吉 富	草刈 登喜代	早川 陽子	米村 光	米村 光
高森 さつき		工藤 敏代	早川 陽子	米村 光	米村 光
高武 尚子		倉岡 美穂	早川 陽子	米村 光	米村 光
谷近 登紀子		倉賀 佳子	早川 陽子	米村 光	米村 光
近田 綾子			早川 陽子	米村 光	米村 光

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 宰城	事務局	坂口 幸男	黒葛原 潔
	本山 洋	委員	川田 幸子	藤本 幸弘
	林原 隆治		佐藤 奈々絵	松岡 聡
	草刈 秀士		高倉 正純	山崎 崇伸
委員長	神田 一伸		田北 洋康	

第1回 昭和57年12月28日(火) 越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 楽劇「ニュルンベルグのマイスターシンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/ワタベカズオ



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) トッカータとフーガ 二短調 (J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 序曲「コリオラン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/粕山 和明



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 楽劇「ニュルンベルグのマイスターシンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添 富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



齋場 知昭



勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオクレーマー



独唱/水野 貴子



青山智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山智英子



井ノ上 了史



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日)



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 喜歌劇「こうもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 覚



佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了史



小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 混声合唱のための「うた」から(武満徹作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/佐々木典子



加納 里美



井ノ上 了史



佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹



独唱/松本美和子



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第27回 平成21年12月20日(日) 序曲「献堂式」ハ長調 作品124(ベートーヴェン作曲)



指揮/現田 茂夫



独唱/三縄みどり



加納 里美



樋口 達哉



堀内 康雄

第28回 平成22年12月26日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/角田 鋼亮



独唱/藤本いくよ



山下 牧子



大澤 一彰



小川 裕二

県立劇場で「第九」演奏会

「歓喜の歌」高らかに



「歓喜の歌」の大合唱が響いた県民第九の会の「第九」演奏会
=25日夜、熊本市の県立劇場（小野宏明）

益金の一部被災地へ

節をドイツ語で歌い、高揚感に包まれた。1982年、同劇場の落成記念で始まり29回目。県内の愛好者による実行委で参加者を募り、開いている。益金の一部は大震災の被災地に義援金として送られる。（内海正樹）

東を九州自動車道、に挟まれた地域にあそび広住の年神社。10月15日、民家の納屋で住民め縄を準備する。

鳥居に取り付ける5分の真つすな毛戸にして、なった縄を奏

指揮はフィンランドの4人。県内外の高校生から87歳まででつくる合唱団と熊本交響楽団約80人が出演した。

東日本大震災復興応援
援・ベートーベン「第九」演奏会が25日夜、熊本市の県立劇場であり、合唱愛好者約310人が「歓喜の歌」を高らかに歌い上げた。県民第九の会（神田一伸実行委員長）、県文化協会主催。

授（テノール）、二期会の山下牧子さん（アルト）、熊本市出身の本松三和さん（ソプラノ）、泗水中教諭の松岡聡さん（バリトン）

